

令和5年度 鶴岡市郷土資料館運営委員会 会議録

○日 時 令和6年2月2日(金) 14:00～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 講座室

○出席委員 阿部博行委員 渡部 幸委員 齋藤和久委員 本間 豊委員  
佐々木勝夫委員 升川繁敏委員 黒羽根洋司委員 森木美穂委員

○職員 館長：五十嵐恭子 館長補佐：今野 章  
図書主事：鈴木ひより 社会教育課文化主幹：五十嵐雄

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 1人

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 報告・協議
  - (1) 令和4年度及び令和5年度郷土資料館運営報告について
  - (2) その他

〈協議内容〉

**委 員**：外部での講座は資料館職員が講演したのか。先方からのオファーか。

**事務局**：依頼を受け、全て当館職員が講師を務めたものである。

**委 員**：古文書講座ではどのような史料を使ったのか。

**事務局**：1回目は証書類、2回目が仮名文字、3回目で道中記と読みやすい手紙を使用した。今回の講座が「初めて学ぶ」と謳っていたため、内容の理解しやすさを重視した。

**委 員**：図書館業務と並行して、職員が外部講座を一手に引き受けているようだが大変だと思う。専任の学芸員を配置すべきである。

**委 員**：史料整理に慣れてくるのは3年目あたりから。史料に触れる経験を積まなければ目録等の整理は困難。会計年度職員であっても、やる気があれば継続して働くことができるようにしてはどうか。

**委 員**：職員の史料への理解が進んでおり、閲覧したい史料をすぐに出してくれて非常に助かっている。史料が分かる職員を大事にしてほしい。

**委 員**：以前は未整理史料の多さが問題となっていたが、利用者が円滑に利用にできる段階まで進んでいて大変素晴らしい。未整理史料はどの程度残っているのか？

**事務局**：寄贈または購入して新たに入ってくる史料と、元小堅小学校に置いている史料が未整理である。

**委 員**：外部講演について、担当を振り分けて委員を活用してはどうか。

**事務局**：お願いできるのであれば、大変ありがたく心強い。

**委員**：地域の無形文化に関わる人々は、文化を後世に残すため、その歴史的背景を地元の人に対してどのように伝えるべきか、頭を悩ませている。郷土資料館が文化伝承の相談窓口として機能することを期待する。

**事務局**：民俗芸能の継承を目的とする活動として、2月4日（日）に社会教育課が主催する民俗芸能交流発表会が開催される。

**文化主幹**：荘銀タクトを会場に、鶴岡市内6団体が出演する。東北文教大学の菊地和博先生には、それぞれの特徴や見どころを解説いただく。入場無料、申込不要なので、ぜひご参加ください。

交流会のほかに、デジタルアーカイブのような考え方で映像記録として残す取組も行っている。

**委員**：来年度から致道館高校が開校する。この機会に、致道館の成り立ちや校名に致道館とつける理由を発信し、将来の人に理解してもらうべき。資料館で何かできないか。

**事務局**：資料館が所蔵する致道館の蔵書は、かなり難解で市民向けの講演には不向き。致道博物館と相談しながら考えていきたい。

**委員**：元小堅小は、史料の保存場所としてあまり好ましくない環境。現在、小学校に保管している史料をより適切な場所へ移動することは考えているか。

**事務局**：資料館で収蔵しきれない史料を小堅小に保管している状況。来年度には別の収蔵スペースを確保できる予定。予算と場所が決まり次第、移動を行う。

**委員**：資料館は紙資料が中心であり、文書館としての性格が強い。新たな収蔵スペースを確保して収蔵庫に余裕が出てきたら、ぜひモノ資料の受け入れてもらいたい。

**委員**：資料館は収集方針を定めているのか。

**事務局**：受け入れるのは基本、紙資料。庄内が関連していて、墨で書かれたもの、直筆のものを中心に収集している。基本、蔵書類はお断りしているが、佐藤誠朗文庫のような貴重なコレクションは例外的に受け入れている。

**委員**：自分から民俗芸能が伝えられている地域に赴き、現場で見るようなきっかけをつくるべき。芸能の公演情報をまとめて発信してはどうか。

**文化主幹**：以前、教育委員会で芸能カレンダーを発行していたが、見直しされてない状態。現在の活動状況を調べることから始めていきたい。

**委員**：1月1日に発生した能登半島地震と津波に付随して、庄内が江戸時代に見舞われた大津波について何かで紹介してはどうか。

**事務局**：天保4年の津波は、昨年、山形新聞が日本海沖の地震について連載した際に掲載されたほか、『庄内の歴史ハンドブック』でも紹介した。

**委員**：山形新聞を購読していない方もいる。回覧板の案内に入れ込めば、より多くの人目に触れることができるかもしれない。時事と関連した庄内の歴史を発信する仕組みがあればよいと思う。